

	三重労働局労働基準部安全衛生課		
担	課長	伊藤	勲
	課長補佐	鍋島	猪一郎
当	TEL	059-226-2107	
	FAX	059-226-2117	

平成19年の三重労働局管内における 労働災害の発生状況について

- ・死傷者数（休業4日以上）、死亡者数ともに増加

1 死傷者数(休業4日以上) について

平成19年の労働災害による休業4日以上の死傷者数は全産業で2,675人、前年に比べ36人(対前年比1.4%)増加した(表1参照)。

特に、被災者数の増加が大きいものを業種別にみると、製造業が935人(対前年比87人、10.3%増)であり、そのうち食料品製造業が177人(対前年比50人、39.3%増)、金属製品製造業が144人(対前年比29人、25.2%増)であり、製造業以外では、保健衛生業が134人(対前年比40人、42.6%増)である(表3、4参照)。

事故の型としては、転倒(462人、17.3%)、はさまれ・巻き込まれ(435人、16.3%)、墜落・転落(430人、16.1%)が多い(グラフ1参照)。

起因物としては、仮設物・建築物・構築物等(578人、21.6%)、動力運搬機(310人、11.5%)が目立っている。

(参考：「仮設物・建築物・構築物等」は足場、支保工、通路、建築物、開口部等を、「動力運搬機」は動カクレーン、乗用車等を除き、トラック、フォークリフト、コンベア、不整地運搬車等をいう。)

2 死亡者数について

平成19年の労働災害による死亡者数は全産業で27人、前年に比べ2人増加した(表2参照)。

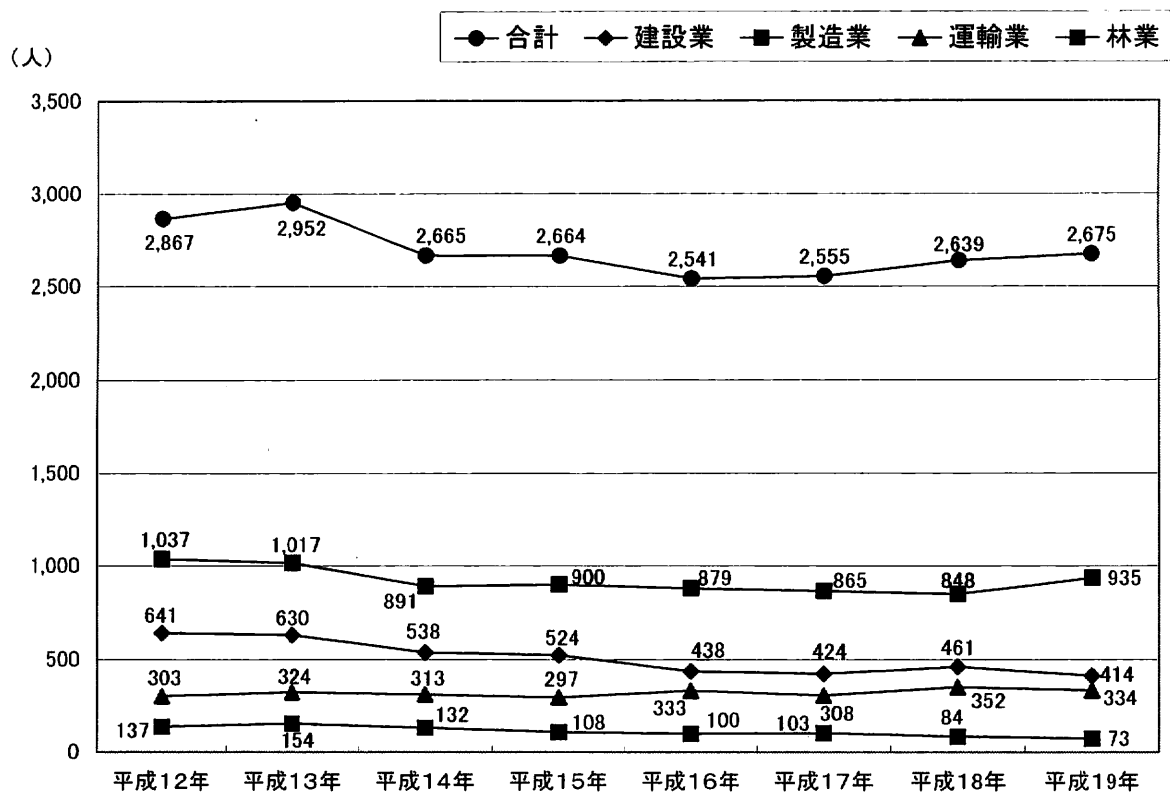
業種としては、建設業が11人(対前年比2人増)、製造業が7人(対前年比1人増)、第3次産業が7人(対前年比3人増)が上位を占めている(グラフ4参照)。

事故の型として多いのは、墜落・転落が12人(対前年比9人増)、はさまれ・巻き込まれが5人(対前年比±0人)、交通事故が3人(対前年比6人減)である(グラフ3参照)。

3 三重労働局の取組について

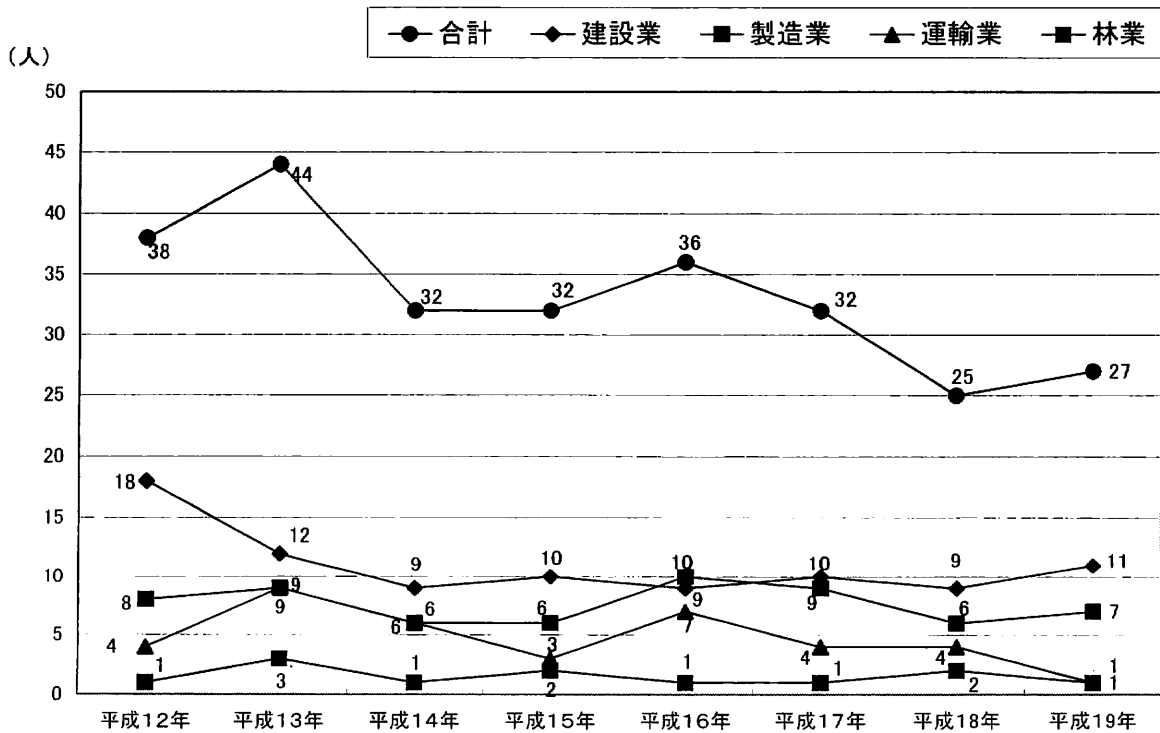
災害発生件数の多い製造業、建設業等を重点として労働災害防止対策を推進するとともに、労働災害の防止に有効な手法である危険性又は有害性等の調査等の措置(リスクアセスメント)の普及促進を重点として進めることとしている。

表1 業種別労働災害発生状況の推移
(休業4日以上死傷者)



資料出所: 三重労働局「労働者死傷病報告」

表2 業種別死亡災害発生状況の推移



資料出所: 三重労働局「死亡災害速報」

表3 休業災害の推移(平成12年～平成19年)

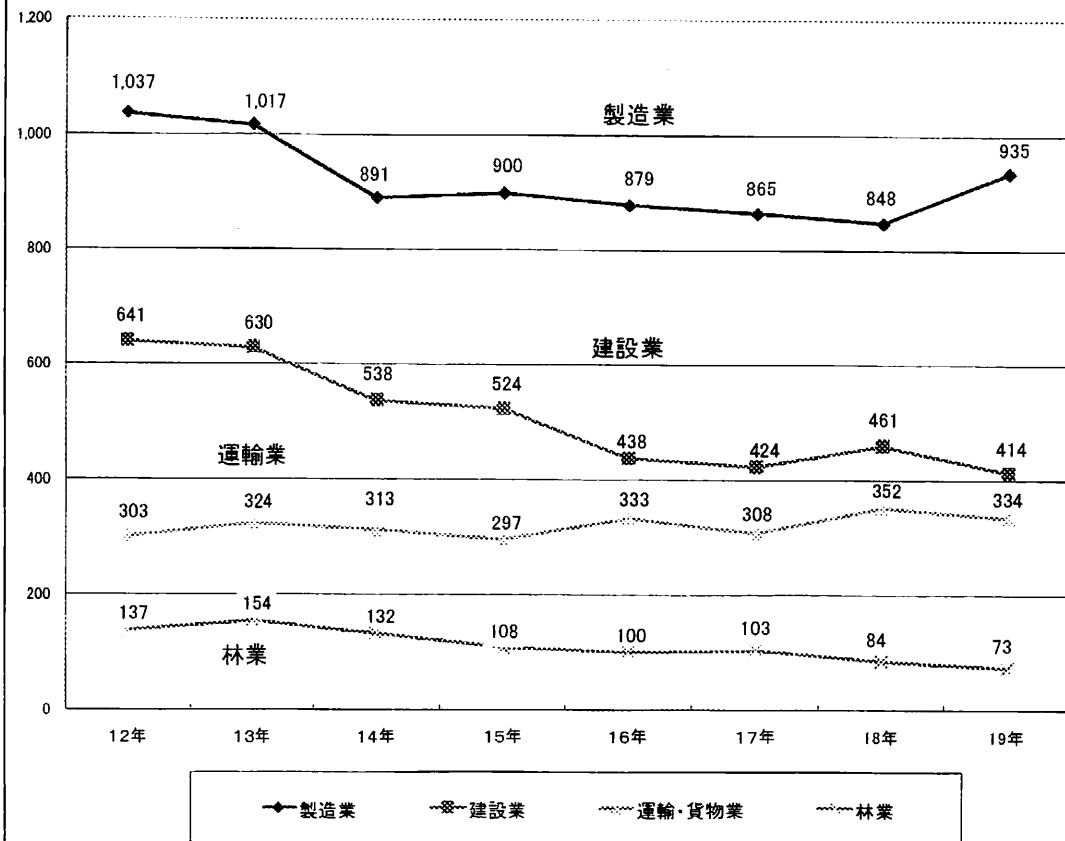
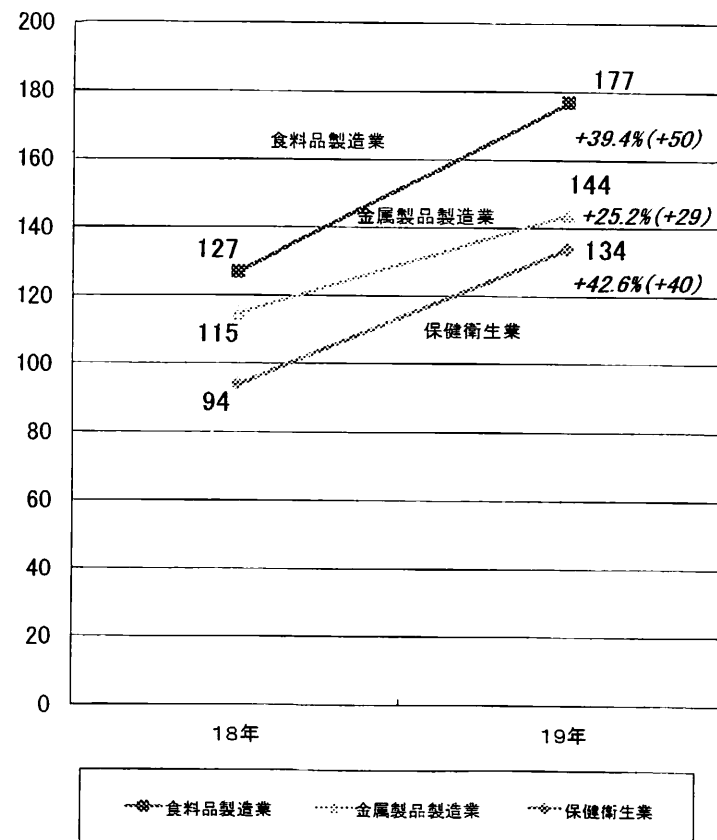


表4 休業4日以上死傷者数(18年・19年比較)



年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年
製造業	1,037	1,017	891	900	879	865	848	935
建設業	641	630	538	524	438	424	461	414
運輸・貨物業	303	324	313	297	333	308	352	334
林業	137	154	132	108	100	103	84	73
全業種	2,867	2,952	2,665	2,664	2,541	2,555	2,639	2,675

全業種 +1.4%

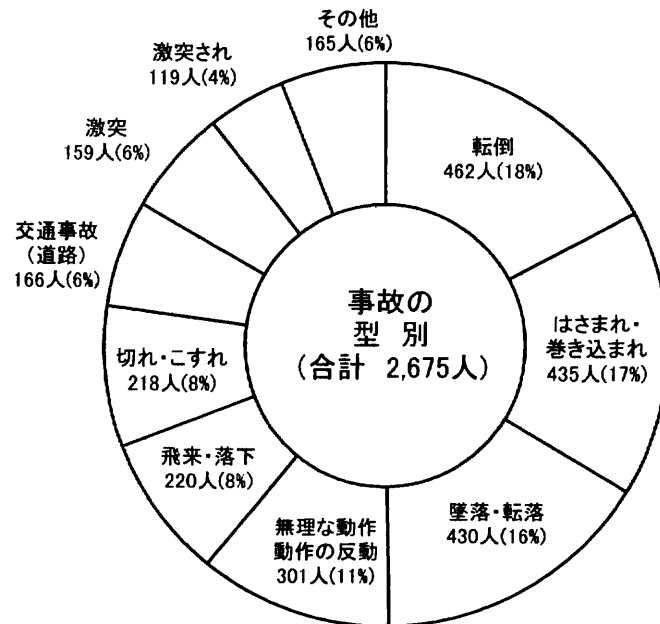
	18年	19年
食料品製造業	127	177
金属製品製造業	115	144
保健衛生業	94	134
全業種	2,639	2,675

全業種 +36人 +1.4%

4

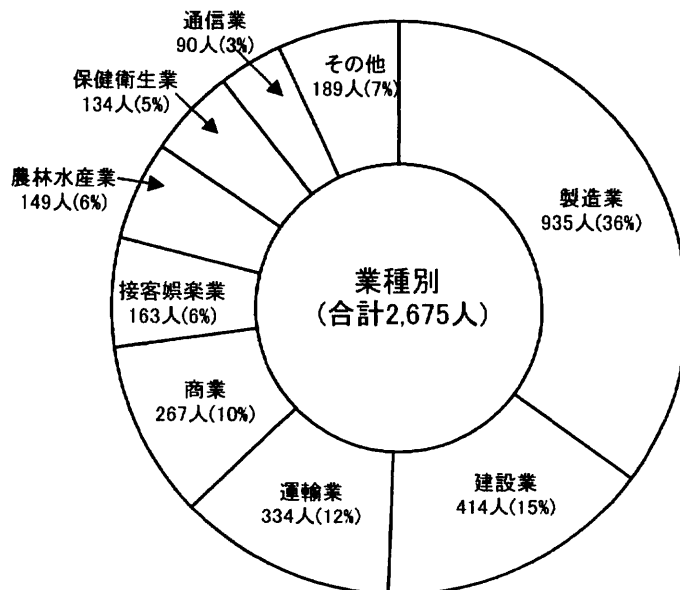
グラフ1

平成19年 事故の型別災害発生状況(休業4日以上)



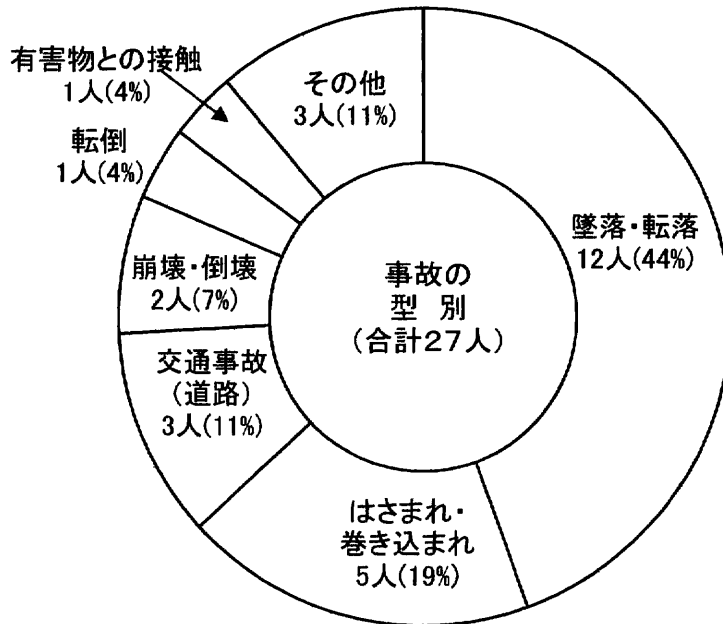
グラフ2

業種別災害発生状況(休業4日以上)



グラフ3

平成19年 事故の型別災害発生状況(死亡者数)



グラフ4

平成19年 業種別災害発生状況(死亡者数)

